

拠点大学の概要及び採択理由

機	関	名	東 北 大 学
---	---	---	---------

[国際化拠点の構想の概要]

開学以来「研究第一」「門戸開放」を標榜する東北大学は、広く世界から意欲と能力を備えた俊秀を受け入れ、世界トップレベルの研究・教育を創造してきた。同時に、本学は、平成19年に策定された東北大学アクションプラン(井上プラン)のもと、世界リーディング・ユニバーシティにふさわしい、第一級の質の高い国際的教育環境の醸成に努めている。この計画の中核として本学が目指しているのは、「国際的な視野」「高度な教養と専門的知識」「確かな研究・実践能力」をあわせ持つ、地球規模で活躍する指導的人材の育成・輩出である。

東北大学は、12のグローバルCOE、世界トップレベル研究拠点(WPI)などを有する国際研究教育拠点であり、特に大学院レベルでの留学生の受入に高い実績をもつ。この卓越した研究水準に基づく質の高い専門教育を前提とした教育の国際化のさらなる進展が、本学の最重要課題である。本構想においては、高い実績をもつ大学院教育の国際化を加速させ、高度な専門性を有し世界をリードできる人材を育成・輩出する。学部教育においても、今までの様々な国際的教育実績をもとに、基礎的な専門知識と直結した英語による授業のみで学位取得可能なコースを整備し、また、多彩な国際的学習機会を飛躍的に拡大、世界で活躍するのに十分な国際的学士力を養成する。

1. 海外における留学促進の取組

東北大学は、中国・米国の代表事務所を始めとする9カ国14の海外拠点を有している。また、大学間129、学部・大学院・研究所などの間で282の学術協定校を有する。さらに、環太平洋大学協会(APRU)、東アジア研究型大学協会(AEARU)、欧州工学系大学連合(T.I.M.E.)等の有力な大学コンソーシアムに加盟している。本事業において、第一に、これら海外事務所・世界の有力大学・機関・コンソーシアムと連携し、さらに、ロシアや北欧などに新たに代表事務所等の拠点を設立・強化することで、海外における戦略的な広報および留学の促進(海外大学共同利用事務所については日本全体の大学への支援)に取り組む。また、これらの活動には、中国などにある海外の校友(同窓)会や卒業生の協力を得る。第二に、これらの海外拠点を活用して、入学希望者の選抜や交換留学生等の選考、さらには合格者の入学前支援を行う。第三に、学生のニーズに合う多様な国際共同教育(ダブルディグリーを含む)の実施などを通して本学の教員・学生による海外での学術等の交流活動を奨励することで、本学の国際的な存在感を高め、同時に、これらの交流を通じて海外の留学希望者への働きかけを行う。

2. 国内における留学生の受入

東北大学は、国内における留学生の受入を促進するため、次のような取組を進める。

第一に、英語による授業のみで学位を取得できるコースおよび単位互換プログラムを抜本的に拡大する。本事業の運営・支援を行う全学組織として「国際教育院」を設立し、本拠点整備事業で雇用される教員を所属させる。その上で、学部では、理学部、工学部、農学部において英語で学位取得可能なコースを新設し、人類共通の課題解決の基本となる専門知識を国際的環境のもとで育む。また、大学院では、既存の英語での授業や学位取得コースに加え、多様な学問領域において英語で学位取得可能なコースを大幅に拡大する。

第二に、入学前から卒業後の就職・キャリアまでの「留学生にやさしい」包括的支援体制を深化させる。本学が国際連携の中核組織として設立準備を進めている「国際連携機構」を中心に、国際教育院・国際交流センター・学生相談所・キャリア支援センター等の間の連携を図り、一貫した留学生支援を可能とするワンストップ・サービスの全学体制を構築する。特に、留学生に対するアドミッションや査証、住居に関するオフィスの設置・機能強化を図る。また、博士課程学生に対して実績のある総長奨学金President Fellowshipを修士・学部学生にも拡大し、入学前の受給選考を実施、世界から優秀な留学生の獲得を促進する。

第三に、日本の学生と留学生との交流や共修(相互学習)の機会を通じて、双方にとってより魅力ある国際的学習環境を提供し、多様な文化への理解を促進する。また、地域ボランティアや自治体などと連携して、留学生が地域社会に参加し安心と利便を享受するなかで学問に邁進できる体制を確立する。

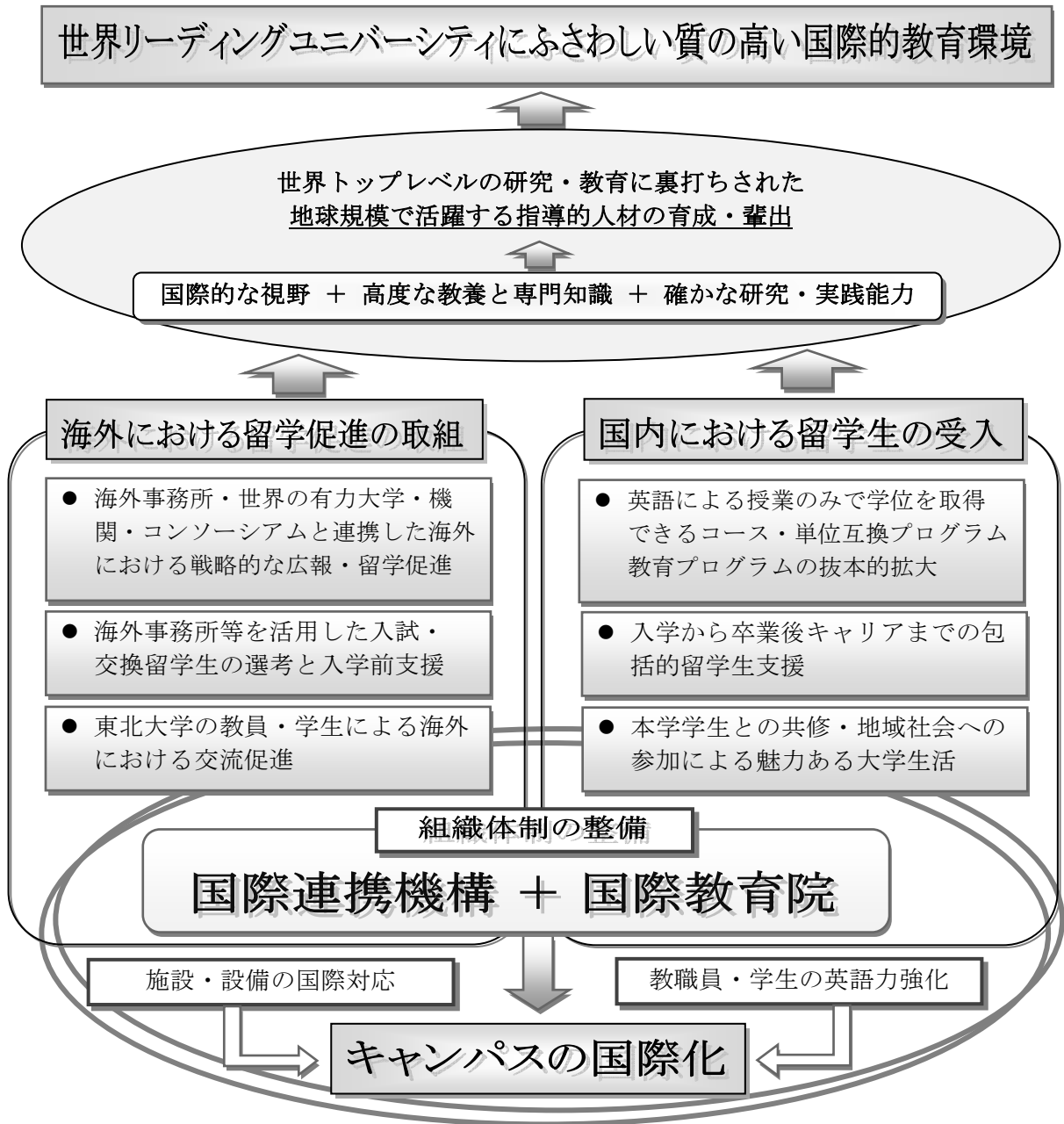
3. キャンパスの国際化

以上の取組をすすめる基盤として、国際連携機構および国際教育院を中心として、国際化拠点形成のための全学的組織体制を整備・確立する。また、留学生や外国人教員と日本学生が共に生活できる寄宿舎等の整備を進めることで、本学の施設・設備の国際対応を強化する。さらに、一部実現済みの学内文書の英語化の促進、英語のできる教職員の戦略的配置と教職員全体の英語力向上を加速させ、学内サービスの国際対応を徹底する。同時に、すでに取組を進めている英語教育の充実やTOEFL受験の奨励・義務化による学生の英語力強化を進める。英語での授業を能力のある日本の学生に開放、本学の学習から留学へ、また、留学後本学の教育に円滑に移行できる学習機会としても活用する。

以上により、本国際化拠点整備事業の終了時まで、世界リーディング・ユニバーシティにふさわしい質の高い国際的教育環境の基盤を確立する。

【東北大学】

国際化拠点の概念図 (海外における留学を促進するための取組、国内における留学生の受入のための取組について、構想の達成目標と取組計画をわかりやすく図示してください。)



英語コース: 学部及び大学院

	理	工	農	経	医...
博士	既設	既設	既設	新規	新規
修士	既設	新規	既設	新規	新規
学部	新規	新規	新規	短期留学生受入プログラム	
	全学教育 (教養・基礎)				

国際教育院

- ・ 英語コース運営
- ・ 教員派遣、支援

大 学 名	東北大学
-------	------

〔採択理由〕

東北大学の国際化に関しては自然科学系を中心とした実績や国際連携機構の設置、極めて数多い大学との協定など国際化推進の取組は非常に優れており、今後の留学生の受入の更なる充実が大いに期待できる。また、国際化拠点の整備のための構想では、英語による授業のみで学位が取得できるコースの充実などの取組が積極的に計画されているなど、本事業の趣旨に十分適合していると評価できる。また、学長のリーダーシップの下、全学的な規模で積極的に国際化実施の体制が講じられ、その実現性も高く、我が国を代表する国際化拠点としての成果と今後の展開が十分に期待できる。

＜特に優れた点、期待できる点、留意すべき点＞

- ・ 学部、大学院ともに英語による授業のみで学位が取得できるコースの開設が多数計画されているが、これまでの実績だけでなく、有機的に総合化された国際化拠点の構想の内容を踏まえると、その実現可能性は十分見込まれる。
- ・ 国際化拠点の構想に対し、経費面での支援も含め、全学的な実施体制が計画されており、支援期間終了後の展開も期待できる。
- ・ 今後、大幅な増加を目指す日本人学生の海外派遣に関し、計画された留学プログラムはやや具体性が乏しく、達成目標の実現に向け、一層の工夫が望まれる。
- ・ 国際化に向けた大学の組織体制は、教員の面を中心にかなり進んでいるが、事務体制の国際化については更なる充実が望まれる。